

盛岡市における空中飛散スギ・ヒノキ科花粉飛散予報と実況

○須藤守夫、須藤礼子(須藤内科クリニック)

(目的)

花粉測定は盛岡市において22年間(1984~2005)行い、スギ・ヒノキ科花粉予報は日本気象協会東北支局で1988年より18年間行った。その結果について報告する。

(方法)

空中飛散花粉捕集はダーラム型花粉採集器で行い、飛散数は個/cm²で表わした。飛散数を毎日東北支局に報告し、支局では気象から翌日の花粉予報を発表した。次年度の花 pollen 飛散数の予測は花粉数と前年の気象との関係、雄花の着花状況からおこなった。

(結果と考案)

- 1) スギ・ヒノキ科花粉の年間飛散数(個/cm²)は過去22年間の平均3356個であった。年間での変動は230から13089個と激しいが経年的増加は無かった。今年は9058個と1995年に次いで2番目に多かった。初観測日は、平均2月24日で年々早くなり今年1月28日であった。飛散開始日は平均3月10日で今年も3月10日であった。
1日30個以上飛散すると重症になる。その期間は例年3月20日~4月20日(実日数19日)今年3月22日~4月30日(実日数29日)であった。
- 2) シーズン中毎日出していた花粉予報(東北支局)の的中率は10年間の平均62%、1ランク外れた日を2分の1で評価すると77%と有用であった。
- 3) 次年度の花 pollen 数の予測は花粉数と最高気温7/11~8/10(前年一前々年)が最も相関し、前年7月、8月も相関したが、日照時間は相関しなかった。着花状況は8年間行い2004年を除き一致していた。2004年は200~500個で少ないと予報し3806個と多く、北東北は全般に多かった。東北は南よりスギの植林が20年遅れており、新たな樹が飛散を開始したことも一因か。
- 4) ヒノキ科花粉の飛散はスギ科花粉の終わりごろみられるが、飛散数は今年317個(スギ+ヒノキ科花粉数の3.4%)で、最近10年間も平均2.1%と少なかった。ヒノキ科花粉は岩手では問題にならない。

(まとめ)

スギ・ヒノキ科花粉の大量飛散年(年間飛散数3000個以上)は22年中8年で、ここ3年間連続大量飛散であった。次年度の飛散予測は過去の飛散数、気温、日照時間、雄花の着花状況、大量飛散した次の年の減少率、樹令20才以上になるスギの頻度などさまざまな検討が必要であり、地域に密着した予想と実況を続けていく予定である。